

## 首都大学東京の名称変更について

「首都大学東京」は東京都が設置する唯一の総合大学であり、質の高い教育と卓越した研究力を誇ってきたが、本学が都立の大学であることや、その高い教育研究水準に対する認知度が十分でないという現状がありました。

高い研究力が国際的にも認められている（THE 社 ランキング国内 11 位）にもかかわらず、首都圏のビジネスパーソンを対象としたブランドイメージ調査結果はそれに見合っていない。また、「学生生活実態調査」では、「私立大学や専門学校と混同されることもあり、難関校にもかかわらず、評価がその価値に見合わない」と言った声が多く寄せられています。

こうした現状については、以前から法人としても問題意識をもっており、これまでも、首都大学東京に広報専管部署を設置し、新たな広報戦略のもと、教育、研究及び社会貢献活動の状況や成果を国内外に積極的に発信するなど、様々な努力を重ねてきたところですが、加えて、今後ブランディング戦略や都との更なる連携について検討していくことを、先般行われた東京都の都政改革本部会議において、「見える化改革」の一環として知事に報告したところです。

そうしたところ、知事より、ブランディング戦略の一つとして、大学名の変更について問題提起があり、スピード感を持って取り組んで欲しい旨の意見も付されたため、法人としてもそれを受け止め、検討をすすめてきました。

検討の結果、都立の大学であることを明確に打ち出す大学名に変更し、都との連携関係をさらに強化していくことにより、教育・研究力にいつそう磨きをかけ、その成果をこれまで以上に都政へ還元していく。そのことで、都民の皆様にも大学のありかたをより理解していただけるようになり、結果として本学の高い教育研究水準に対する認知度向上に繋がっていくと考え、大学名を「東京都立大学」とすることと方針決定しました。

都立の大学であることを都民にわかりやすく発信するには「東京都立大学」という名称が一番すっきりしており、まさに都政や都民生活に貢献していく大学であるということ、シンプルかつ明確に表現するものと考えています。また、首都大学東京の名称は「大学」の後ろに「東京」が付くため、大学として認識されにくい、履歴書に書きにくいなどの意見が常に学内から挙っていましたが、今回の大学名の変更により、この点についても解消されるものと考えています。

知事からの問題提起からは約1ヶ月の検討期間ではありますが、その間、大学においては教育研究審議会、法人においては経営審議会を複数回開催し、議論を重ねてきました。また、学生や教職員からも意見を聴取してきました。現在の名称を維持すべきとの意見もありましたが、全般的に東京都立大学への名称変更を求める声が多く、それらも勘案して今回の方針決定となりました。

今回の名称変更は、首都大学東京が、東京都が設置する大学であることをより認知していただくための変更ではありますが、大学名を変更しただけで認知度が向上するとは考えておりません。大学の認知度向上のためには、教育・研究力強化はもとより、社会貢献、大学広報なども重要であり、今後これらの取組について一層努力を重ねていきたいと考え

ております。

この変更により名称自体は首都大学東京が設置された時再編・統合した4つの大学のうちのひとつである東京都立大学と同じになりますが、かつての東京都立大学へ回帰するという意図は全くありません。また、決してこれまでの首都大学東京としての歩みを否定するものでもありません。新生「東京都立大学」、新たな東京都立大学として、現在の大学をさらに発展させ、大学の認知度やプレゼンスをより向上させていきたいと考えております。

一方、大学は専攻する課程において知識や能力を学生に修得させるとともに、卒業生・修了生がそれぞれの課程を修めたことを生涯にわたり保証する役割を持っています。この意味で、「首都大学東京」の名称を変更することによる卒業生・修了生への影響は避けられないと考えます。名称変更後は、「東京都立大学」の認知度を高めることに最大限努力するとともに、「東京都立大学」の旧名称が「首都大学東京」であることを長期にわたり発信していくことによって、卒業生・修了生への影響を最小限に抑えたいと考えております。

受験生や高等学校などを含め、学生・卒業生など関係者の皆様にはしっかりとこれらの経緯について説明してまいります。特に、首都大学東京を維持すべきとの意見をお持ちの方々に対しては、今後説明会の場などにおいて丁寧に説明していくと共に、そのような御意見を十分踏まえ、今後の大学運営に活かしてまいります。